

1. はじめに

歴史的に魅力的で良好な景観を有している地方都市の代表的なものとして、小京都と呼ばれている都市がある。これらの都市は古都京都のように周囲を山で囲まれ、町中を清流が流れている山紫水明の地であり、その町並みが町家や社寺などによって、しっとりとした雰囲気を醸し出している。

そこで、本研究では「みちのくの小京都」と呼ばれている秋田県角館町において、その町民を対象とした調査を実施し、今まで行った観光客を対象とした調査¹⁾との比較を行うことにより、角館町の小京都としての魅力を解明するものである。

2. 調査の方法と内容

調査は1998年7月下旬に、角館町の住宅500戸を対象として、1戸当り3票のアンケート用紙の直接配布を行った。この結果、郵送による回収数は87戸（回収率：17.4%）で、回収した有効票数は187票（2.15票／戸）であった。また、調査の設問内容は、個人属性、小京都らしさを演出する景観構成要素及び景観整備事業に関する項目である。

3. 小京都の魅力に関する分析結果

(1) 角館町の小京都らしさ

角館町民が抱いている角館町の小京都らしさを把握するため、小京都らしさの程度について質問をした。その結果、図-1に示すとおり「まあまあ持っている」が59%と最も高く、「非常に持っている」が27%と続いている。この2項目を合わせた小京都らしさに対する肯定的な回答は86%となり、小京都らしさを否定した項目の合計の11%を大きく上回っている。これを観光客に対する調査と比較すると、前者は92.5%、後者は2%であり、その差が町民より大きくなっている。このことから、観光客の方が角館町民より、角館町に抱えている小京都らしさはより強いことがわかる。

(2) 小京都らしさを形成する景観構成要素

小京都らしさを演出している景観要素を明らかにするため、「山」「川」「町並み」「樹木」「文化財」及び「装置・小道具」の6つの景観構成要素を、第1位から3位までの順位付けで回答を求めた。この回答の順位付けを生かすため、各選択数に対し第1位選択は3倍、2位選択は2倍、3位選択は同倍としたウェイトを付けて集計し、各要素の合計数を選択数で除した。その結果、「町並み」が37%、「樹木」が23%、

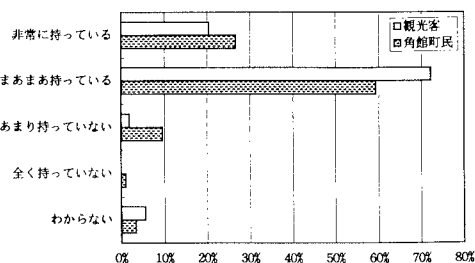


図-1 角館町が有している小京都らしさの居住地別比較

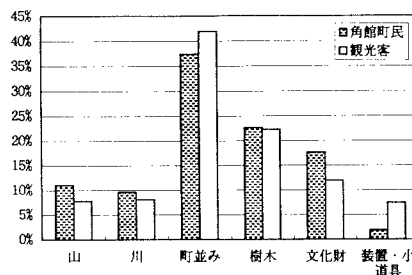


図-2 小京都らしさを形成する景観構成要素の居住地別比較

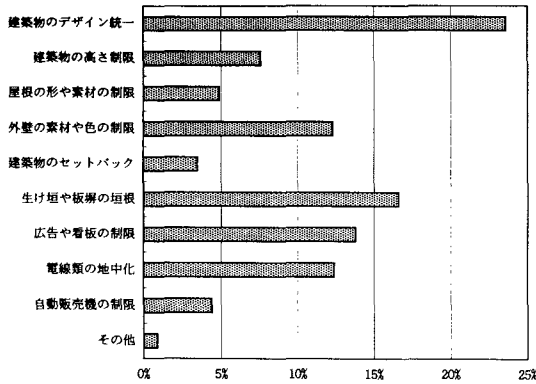


図-3 町並みを構成する魅力要因

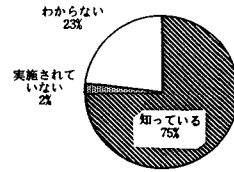


図-4 景観整備事業の住民認知率

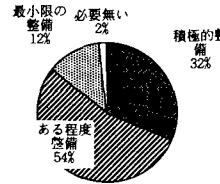


図-6 今後の景観整備の在り方

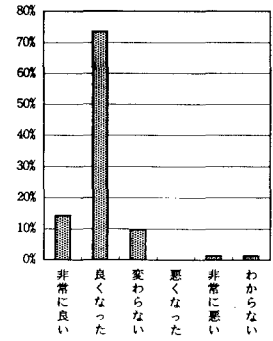


図-5 景観整備後の評価

「文化財」が18%を占めており、観光客が選択した要素と同順である(図-2参照)。このことから、小京都らしさを演出する景観構成要素は、被験者の居住地にかかわらず、「町並み」「樹木」及び「文化財」の3要素にウエイトが置かれていることがわかる。

(3) 町並みを構成する魅力要因

景観構成要素の内、特に高い評価を得ている「町並み」の魅力を探るため、町並み形成の魅力要因を10項目設定して、前項と同様第1位から3位までの順位付け回答とした。また、集計方法も同様に選択順位に重みを持たせた。その結果、図-3に示すとおり、「建築物のデザイン統一」「生け垣や板塀の垣根」及び「広告や看板の制限」が高い率を示しており、さらに「電線類の地中化」や「(建築物)外壁の素材や色の制限」が続いている。これにより、これらの要因が小京都としての町並みを形成するうえで重要なポイントを占めていると思われる。

4. 景観整備事業に関する住民意識

角館町民に景観整備事業の有無について質問したところ、図-4に示すとおり、知っていると回答した住民は75%であった。この認知回答者に対する景観整備事業の評価についての質問では、「非常に良い」が14%、「良い」が74%であることから、事業を評価している人は88%に上った(図-5参照)。

また、今後の景観整備事業の在り方に対しては、「積極的に整備すべきである」が32%、「ある程度の整備は行ふべきである」が54%と整備を容認する人は86%に上っている(図-6参照)。

5. まとめ

本研究では歴史都市である角館町を対象として、小京都らしさやそれを形成する景観構成要素などについて調査を行った。その結果、角館町に対しては地元住民や観光客が共に小京都らしさを感じており、それを構成している要素は、「町並み」「樹木」及び「文化財」であることがわかった。その内、「町並み」の魅力については、「建築物のデザインの統一」「生垣や板塀などの垣根」及び「広告や看板等の制限」が上位を占めていることから、これらの要因に対する規制・誘導がより一層重要である。一方、景観整備事業については、角館町民の多数が評価しており、今後の景観整備についても大多数の人が容認していることから、積極的な景観整備事業の実施が望まれる。

【参考文献】

- 1) 和田章仁；景観要素からみた小京都の魅力に関する考察,第9回日本都市計画学会中部支部研究発表会論文・報告集,pp.41~44,1998